名古屋外国語大学国際経営学部同窓会報
NACION vol.2
2006年10月10日発行

発　行：名古屋外国語大学国際経営学部同窓会事務局
〒470-0197愛知県日進市岩崎町竹ノ山57
TEL：0561-74-1111（大学代表）
Email：info@nacion.jp
ブログ：http://blog.nacion.jp
編　集：畑　恵（副会長）、浅井恭子（事務局長）

総会・懇親会報告　ご参加ありがとうございました!

2006年7月22日（土）、全日空ホテル・グランコート名古屋において、第2回総会及び懇親会を開催しました。

昨年12月の第1回開催より半年後という短期間での開催となりましたが、皆さんに声を掛け合っていただいたおかげで、会員約60名プラス教職員の方々約10名、合わせて約70名の皆様の参加をいただきました。それに加えて、在校生のアカペラサークル「ラボワ」の12名の皆様にもご参加いただきました。

当日は11時半より受付を開始し、正午に総会及び懇親会をスタートしました。まず、玉井俊紀学部長（現代国際学部長）よりご挨拶を賜り、その後、武原啓子同窓会長の挨拶（代読）の後、総会の議事へと移り、平成17年度の決算報告、平成18年度の予算案について会員の方々にご承諾をいただきました。（平成17年度決算報告・平成18年度予算は11ページに掲載）

引き続き懇親会へと移り、植松千里先生の乾杯で宴が始まりました。皆さん久しぶりの再会ということもあり、美味しいお料理と思い出話で和やかに宴が進みました。
しばらくの歓談・会食の後、前回の会報で募集した会報名の決定報告と採用者の表彰を行いました。（「会報名決定報告」参照）
また歓談の合間に、ご参加いただいた先生方より一言ずつご挨拶を頂戴しました。ご協力いただきました先生方、誠にありがとうございました。

そして宴も盛り上がった頃、中西克彦理事長（中西学園理事長）と水谷修学長（名古屋外国語大学長）がご到着され、早速ご挨拶を頂戴しました。名古屋外国語大学の現状をお話しいただき、今後の同窓会の発展に期待しますとのお言葉を頂戴しました。

その後、在校生のアカペラサークル「ラボワ」の皆さんにご登場いただき、すばらしい歌声を披露していただきました。
そして宴の最後には、ニンテンドーDSLiteや松阪肉などの豪華景品を用意して大抽選会を行いました。

ご参加いただいた皆様、誠にありがとうございました。来年も7月頃に開催を予定していますので、今回ご参加いただいた皆様も、諸事情でご参加いただけなかった皆様も、来年はお誘い合わせてぜひご参加下さい。来年ももちろん「大抽選会」を行います!

名古屋外国語大学国際経営学部同窓会 第2回総会及び懇親会次第

日時　2006年7月22日（土）12:00〜14:30
会場　全日空ホテルグランコート名古屋
次第
1.開会の辞
2.現代国際学部長挨拶
3.同窓会長挨拶
4.議事【平成17年度決算報告、平成18年度予算案】
5.乾杯【植松先生】
6.会報誌名決定報告及び表彰
7.中西学園理事長挨拶
8.学長挨拶
9.アカペラサークル「ラボワ」
10.抽選会
11.同窓会副会長挨拶
12.閉会の辞

ご出席いただいた教職員の皆様（順不同）

中西克彦理事長	水谷修学長
玉井俊紀学部長	奥田隆男学科長
植松千里先生	塩見治人先生
竹内昭夫先生	辻節雄先生
林茂雄先生	久山紀彦先生
水野積成先生	ミシェル・モローネ先生
浅野昌章課長（学生課）	丹羽智子さん（学生課）

大抽選会景品一覧（平成18年度）

1. 任天堂DS Lite×2
2. 最高級松阪肉
3. 高級ランジェリーセット
4. iittalaグラスセット×2
5. ローゼンタール・マグカップセット
6. ロクシタン・バスセット×2
7. 男性セクシーアンダーショーツ×2
8. 高級チョコレート詰め合わせ
9. 高級ボールペン
10. 高級梅干
11. 高級バラ茶
12. 高級凍頂ウーロン茶×2
13. 高級ソーメン

計18点＋参加賞として全員にNUFSグッズをご用意しました。

同窓会本部

平成17年度会計報告 ［2005年4月1日～2006年3月31日］

	項　目	金　額	摘　要
収入	前年度繰越金	13,792,613円	三菱東京UFJ銀行
	会費収入	2,100,000円	H17卒業生210名分
	受取利息	103円	三菱東京UFJ銀行
	計	15,892,716円	三菱東京UFJ銀行
支出	卒業行事援助費	320,920円	しおり、記念品、援助費
	総会費	333,081円	懇親会援助、謝礼、案内
	広報費	562,255円	報告書・会報作成、送付
	奨学金	180,000円	学業優秀者奨励金
	事務費	351,190円	交通費、会議費、人件費、その他雑費
	計	1,747,446円	三菱東京UFJ銀行
次年度繰越金		14,145,270円	三菱東京UFJ銀行

平成18年度予算 ［2006年4月1日～2007年3月31日］

	項　目	金　額	摘　要
収入	前年度繰越金	14,145,270円	三菱東京UFJ銀行
	会費収入	2,100,000円	H18卒業生210名（見込）
	受取利息	10,000円	三菱東京UFJ銀行（見込）
	計	16,255,270円	三菱東京UFJ銀行
支出	卒業行事援助費	350,000円	しおり、記念品、援助費
	総会費	800,000円	総会運営
	広報費	500,000円	同窓会報作成、発送
	奨学金	210,000円	学業優秀者奨励金
	課外活動援助費	100,000円	在校生の課外活動支援費
	事務費	450,000円	交通費、会議費、人件費、その他雑費
	HP開発・維持費	1,000,000円	（来年以降は維持費のみ）
	会員情報管理費	81,900円	（固定）
	予備費	100,000円	
	計	3,591,900円	三菱東京UFJ銀行
次年度繰越金		12,663,370円	三菱東京UFJ銀行

次回以降の会報について

次回以降の会報はホームページに掲載することとなりましたので、このように紙面でお届けするのはこの第2号が最後となります。会報発行のご案内はハガキ等でさせていただきますので、会報自体はweb上でご覧いただきますようお願い申し上げます。

会報及びHP、ブログへの掲載募集

会員の皆様からのメッセージを同窓会報又はブログサイトへ掲載いたします。ご自身の事業及び活動案内や同窓生へのメッセージ、イベント情報など、同窓会員へ伝えたい事があればなんでも結構です。随時受け付けておりますので、お気軽に下記までご連絡下さい。多数のご応募をお待ちしています。

住　所／〒470-0197愛知県日進市岩崎町竹ノ山57
名古屋外国語大学国際経営学部同窓会事務局
ＴＥＬ／0561-74-1111（大学代表）
Email／info@nacion.jp
（ブログサイトblog.nacion.jpからもメールにてご連絡いただけます。）

注意／個人・団体への誹謗中傷や宗教その他の勧誘目的など、法律に違反する内容や同窓会報に相応しくないと判断する内容に関しては掲載をお断りする場合があります。

会員情報変更届

住所等の変更は郵送・TEL・Emailにてご連絡下さい。連絡先は上記と同様です。ホームページ公開後は、web上で変更していただけます。

寄付のお願い

今後の同窓会活動を活性化する為、会員の皆様に同窓会への寄付のご協力をお願い申し上げます。
同窓会は今年度より活動を開始し、現在では様々なイベントや勉強会等の希望がでております。しかし、毎年の会費だけでは運営が難しい状況にあります。会員の皆様が交流できる場を増やす為、また在校生への支援の為、皆様のご協力をお願い申し上げます。ご協力いただきました方々は今後の会報誌にお名前と回生を随時掲載させていただきます。

寄付金振込方法
同封の振込用紙に金額と住所、氏名等を記入して銀行窓口でお振込下さい。また、ATM及びネット送金の場合は下記口座までお振込み下さい。（一口1,000円として何口でも。）
ATM及びネット送金の場合、振込者の確認が難しいため、大変お手数ですが振込された内容と氏名、住所、電話番号、回生を同窓会本部へ電話、メール、手紙などにてご連絡いただきますようお願い申し上げます。円滑な同窓会運営の為、皆様のご協力をお願いいたします。

寄付金振込先
三菱東京UFJ銀行　栄町支店　普通1360405
口座名義:名古屋外国語大学国際経営学部同窓会

同窓会役員

武原啓子	（会長・1期）	中村憲広	（副会長・2期）
畑　恵	（副会長・2期）	浅井恭子	（事務局長・1期）
横井万里子	（書記・5期）	吉田正幸	（書記・6期）
瀧　浩史	（会計・1期）	内門はるか	（会計・6期）
岩出朋子	（会計監査・2期）	近藤健太	（会計監査・8期）

同窓会幹事

鈴木千賀（1期）	飯吉美絵（1期）	中川大輔（1期）
崎山純子（1期）	長峰ユカ（1期）	山下理恵（1期）
鈴木裕介（1期）	伊藤真彦（1期）	服部貴子（1期）
加藤優一（1期）	山崎　豊（1期）	中野桃子（1期）
太田友和（1期）	松原一仁（1期）	竹内千恵（1期）
代田喜之（1期）	八木正人（2期）	原万里子（2期）
森川浩希（2期）	浅野享洋（2期）	岡崎由美（2期）
大井健一（2期）	北山裕美（2期）	平林順子（2期）
荒川誠治（3期）	伊藤　望（3期）	桜川崇弘（3期）
鳥居佳夫（3期）	平井由香（3期）	川平泰雅（4期）
栗田三由紀（4期）	藤田達也（4期）	田中文彦（4期）
犬飼尚樹（4期）	清　正博（5期）	潮田裕稔（5期）
三好里佳（5期）	吉田和代（5期）	後藤直樹（5期）
大石彰則（6期）	伊藤太一（6期）	城月雅大（6期）
祖父江匡記（7期）	徳山正康（7期）	古町真貴（7期）
竹内千晶（7期）	井上高志（7期）	田中潤一（7期）
伊藤浩明（8期）	藤田浩史（8期）	水野裕也（8期）
新宮好洋（9期）	杉浦永美（9期）	

同窓会沿革

昭和63年　4月　名古屋外国語大学創設
平成　6年　4月　国際経営学部国際経営学科を設置
平成10年　3月　第1期生卒業、国際経営学部同窓会発足
平成16年10月　国際経営学部同窓会名簿発刊
平成17年12月　第1回総会及び懇親会開催
平成18年　3月　国際経営学部同窓会報創刊
平成18年　7月　第2回総会及び懇親会開催
平成18年10月　同窓会報「NACION」第2号発行

同窓会報「NACION」第2号発行によせて

同窓会副会長
畑　恵（2期）

本年度より同窓会はやっと動き始めました。国際経営学部1期生が卒業してから今年で8年目になります。卒業生も約2,000名となりました。

昨年12月に大学内で行った第1回総会とその後で外国語学部と合同で行った懇親会は、準備の期間も短かったため会員や教職員の皆様にもご案内が行き届かず、ご迷惑をおかけしたことと思います。それもそのはず、現同窓会役員の殆どが昨年11月、12月に役を頂戴したばかり、それまでは学生課の方々が国際経営学部の同窓会を管理していてくださいました。初めての総会ということもあり、これを機に実質的に動ける人間をということで主だった先生方と学生課の方が動いてくださり、現在の役員メンバーが集まったという次第です。

そのようなこともあり、今回7月22日（土）に行った第2回総会と懇親会が国際経営学部同窓会の初の活動という感が否めません。これまで存在が浸透していなかったこともあり、第2回目にご参加いただいた方々もあまり多くはありませんでしたが、それでも第1回目よりは参加者も増え、少しずつでも同窓会の存在を認識していただき、活動にご賛同いただきつつあるものと確信しております。総会と懇親会は今後毎年行っていきますので、「知り合いも参加していないだろうし‥」などと思わず、ご友人方にお声をかけていただき、皆様でご参加いただいて会を盛り上げていただきたいと思います。また、先生方は国際経営学部の卒業生を本当に懐かしく思っていてくださいます。先生方に近況報告を兼ねて、年に一度この会へ参加してみてはいかがでしょうか。

さて、この同窓会報第2号を発行するにあたり、国際経営学部・現代国際学部の先生方、大学職員の皆様、在校生の方々、またご退任された先生方にも様々な形でご協力をいただきました。皆様それぞれお忙しい中、我々同窓会活動にご賛同いただき、心より御礼申し上げます。会報を編集しながら、我々の卒業した大学、学部は発展し続けているのだということを実感しました。我々の在学中にはほぼ0名だった留学生が現在では100名を超える人数となっており、学部で名称改変がなされたことは国際経営学部同窓生としては少し悲しいことではありますが、現代国際学部として新しくなった今、当初の頃よりさらに少人数の英会話教育、卒業後の進路を視野に入れたビジネス教育や支援講座など、我々の卒業後も進化し続けているのです。このように教育熱心な大学からこれからもすばらしい後輩が巣立っていくことは、同窓生にとっても大変うれしい限りです。

我々同窓会のメンバーは第1期生でもまだ30代の前半です。これから益々活躍される方々ばかりだと思います。その過程で、同窓生の関わりというものは我々の財産ではないかと思います。大学を出てからのそれぞれの経験を基に情報を交換し合い、またそこからビジネスが広がっていくこともあるでしょう。ご結婚された皆さんは子育ての情報交換をしたり、家族同士の付き合いが広がったりもするでしょう。同じ大学そして同じ学部で何年も共に学んだ我々だからこそ、共通する何かがあるのではないでしょうか。

我々同窓会員自身のステップアップの為、そして後には後輩や在校生を支援できるよう、同窓会本部は全力で皆様の交流と活動を支援していきます。卒業生一人一人の善意が、我々の母校である名古屋外国語大学、及び国際経営学部・現代国際学部の後輩の夢の実現に大きく寄与できる事を期待しております。

同窓生、また教職員の皆様には今後益々のご賛同とご協力をお願いするとともに、皆様の益々のご活躍をお祈り申し上げます。

同窓会事務局長
浅井 恭子
（1期、旧姓:長谷川）

同窓会会員の皆様へ

名古屋外国語大学　国際経営学部卒業の皆様、如何お過ごしでしょうか？それぞれにご活躍のことと存じます。同窓会報の名前が『Nacion』に決まり、第2号を作ることが出来ました。これも同窓会役員をはじめ、同窓会会員の協力の結果といえます。今年はグランコート名古屋ホテルで同窓会総会と懇親会も無事に終わりました。参加出来なかった方も是非次回出席してみて下さい。懐かしい先生や、旧友と話すことは非常に有意義な時間を私たちに与えてくれるでしょう。友達とは非常に素晴らしい存在です。それが何年会っていなくてもその素晴らしさは変わらないでしょう。そして大学、先生という存在も同じです。

なぜそう言い切れるかというと、私自身がそう感じているからです。卒業後全く大学とは無縁の生活を送ってきましたが、長久手の方と知り合い結婚し、現在大学で働いています。
お陰で私の人生は大きく変わりました。まさか自分が長久手住民になるとは入学当初思ってもみませでしたが、名古屋外国語大学には2回人生を豊かにしてもらった気分です。
学部生の時は勉強の楽しさや世界の広さ、自分の将来について沢山教えてもらいました。当時は自分が友達付き合いが下手で、自分の気持ちをうまく話せなかったり、先生にもうまく相談出来ませんでした。というより先生に自分の話をすること自体考えられませんでした。

そして今大学で、学生の友達の在り方や、先生に対する接し方を見ていると自分の学部生時代はとても寂しいものだったと痛感します。彼らは自分を大切するように友達も大切にしています。それは異性関係なく自然にそうしているのです。教員に対しても素直に自分の悩みを話し、正直な気持ちで接しています。私から見ていると彼らは非常に有意義な大学生活を送っているように思えます。勉強に対しても真剣に取り組み自分の夢に一生懸命です。それを身近で感じ、非常に刺激になりました。先生方も、卒業した私を自分の子供のように心配し、素晴らしい助言を下さいます。私の子供もまるで祖父のように可愛がってくれたりします。

人生には大切なものが沢山あることを私は学び、信頼や友情には異性や年齢は関係ないのだと実感しました。家庭も大事、仕事も大事、そして友達や、自分に関わる全てが大切だと感じます。私が心からそう思えるのは、名古屋外国語大学に入学し、色んな人に出会えたからだと感謝しています。少しでも恩返しをする為にも頑張りますのでご助力よろしくお願いします。

懐かしの先生方より総会＆懇親会の感想や同窓生へのメッセージを頂戴しました。

社会での活躍に役立つ同窓会の輪をみんなで広げよう

前国際経営学部長・名誉教授

植松　千里 先生

ちょっとさびしかった現代国際学部第2回同窓会

「7月22日(土)昼に金山の全日空グランコートホテルで行われる名外大の現代国際学部(もと国際経営学部)の第2回同窓会に是非参加を」ということで、わくわくしながら会場に赴いた。同ホテルは名古屋市内でも有数のホテルだ。幹事の方々の努力でこんなすばらしい会場で同窓会が開かれ、卒業生諸君たちと会うことが出来るというので私は嬉しさと期待に胸を弾ませていた。

会場に入って驚いたのは参加者の少なかったことだ。

開会が宣言され予定どうりに総会が始まり、幹事からの事業報告そして今後の諸計画の提案などについて参加者全員による「異議なし!」でめでたく終わった。直ちに参加者全員による懇親パーティーが始まった。会には中西克彦理事長、水谷学長をはじめ現代国際学部の玉井学部長ほか現役の教員、職員らが出席し、そして私を含む元教員なども数名(なかには遠方からの)参加で顔をみせていた。同窓生を合わせ当日のパーティーへの参加者は全員で100名ほどであっただろうか。なにかちょっとさびしい雰囲気だった。

近況報告と昔話にパーティーは有効

もちろん参加者はお互いの再会を喜び旧交を温め、会場のあちこちでは同窓生相互そして恩師との近況報告などで感激の声を上げていた。私も担当ゼミ卒業生や就職関係で特に親しく指導した何人かの卒業生と歓談し、成長した教え子たちの姿を見て大変頼もしく思い愉快な一時を過ごすことが出来た。

だが今年の卒業生を入れれば旧国際経営学部の卒業生は2000名を超すはずである。もちろん全員が卒業後名古屋あるいは近県の在住者とは限らない。そしてまた当日よんどころない所用があったり急病の人達もいたろう。それにしても卒業生の30%いや20%最低でも10%の参加者がほしかった。幹事諸君たちも同様だと思うが少なくとも私はそう思う。

4年間在籍し卒業した私立大学の同窓会への参加集客率と愛校精神との相関について研究があれば知りたいものである。

大学時代の人間関係は社会活動に必要

私立大学の良さの一つにはそれぞれ特色ある教育理念に基づく人格形成や、在校時代にそれほどの多人数でなく、どちらかといえば適度な人数の学生による相互の交友による人間関係の基盤作りができる。それらは大学による精神的な人間作りの所産だと思う。

実はこのことが卒業後の諸君たちがそれぞれの分野で活躍する社会活動をするために大変役立つのである。同窓生同士が無用な学閥や縁故の社会を作ることではなく、社会活動の中で相互の人間関係を活用することは社会での成功を勝ち取るための早道である。

本学の同窓会が名古屋外国語大学の同じ学部で学んだという機縁はこうした人間関係を構築する上でも貴重な条件になる。当面卒業生の数も少なく実社会で活躍している先輩の数も少ないのでこの人間関係はいわば「タテ」よりも「ヨコ」に強い人間関係であろう。

タテ・ヨコの人間関係は組織力の基盤

これまでも日本社会は「タテ」社会であるといわれてきた。日本の社会が封建的な家族制度「イエ」から始まって社会全体が

家父長的な縦の人間関係を基礎にした社会構造になっているということなのだがどうだろうか。就職した卒業生諸君が、入社後直面した社内の人間関係でこの「タテ」社会の壁の厚いことに

大なり小なりぶつかっているはずである。

特に組織に属し、その中で仕事をうまくこなし成果を挙げていくというためには、その壁をうまく乗り越える術を早く体得することが必要だ。「タテ」ばかりでなく「ヨコ」の人間関係も早期に作り上げる必要がある。難しい言葉で言えば「タテ・ヨコ」の人間関係を上手に使った総合的な力を組織力と呼びこれが日本のお家芸なのである。

話が企業や事業所に勤めている人達の例になって恐縮だが、日本企業の国際力はこうした優秀な人材達が、それぞれ組織に所属し優れたリーダーの下に組織の一員としてチームワークを発揮していく必要がある。家庭にいる人達や自由業の諸君にもこの話は他人事ではないと理解していただけると思う。

組織人になることの効用

そもそも組織人であることはよいことだ。なぜなら組織は人間を鍛え人格を練ってくれる。言い換えれば人間を成長させ多くのことを教えてくれるからだ。　組織にはさまざまな人がいる。その人達はみな友でありそれぞれに個性豊かな人達であり、その人たちとどう関わりあいどのように協力したらよいのかを学ぶ場として同窓会という組織は有効である。

もちろんこういうグループに属する人がすべて自分にとって恩恵を与えて人ばかりではない。むしろその逆かも知れず、初めのうちは世間知らずであったり常識はずれであったりするかもしれない。だからといって周囲の人達との交わりを避けていたら輪は出来ない。その輪に入りお互いを認め活用する「人の輪」を創ることが大事だし、それがふと気づくと人々が丸みを帯びた人格の個人になりチームワークを育てていくことになるのである。大学の同窓会組織はその「輪」作りの基となる代表的な人間集団だといえる。

みんなで名外大同窓会を育てよう

せっかく発足した「名外大・国際経営学部同窓会」を育てるために幹事の諸君たちだけが頑張っていてもこの「輪」は広がらない。ぜひみながいっそう関心を持ってこの組織を拡大させる努力をしていこう。そのスタートとして出来る限り同窓会組織の活動に参加しよう。

学部の始まりし頃 ー華やかしきスタートと、その軌跡ー

名誉教授 竹内 昭夫 先生

国際経営学部は1994年（平成6年）花々しいスタートを切った。その数年前から中西憲一郎学長、中西克彦教授、権教授を中心に学部開設の周到な準備がなされ、国際化時代に対応すビジネス・パースン育成を目的とし、時宜にかなう学部の新設であった。

産・学・国際のバランスの取れた教員陣を備へるべく従来の保有教育を上回る陣容を準備した。当初メンバーで現に関係する教員を紹介してみよう。名外大、愛知女子短大から移籍された、平井学部長、熊田、権、辻、萩原、中西、高瀬の各教授、外部から招聘の稲福、国津、竹内、水野、佐藤教授など、ビジネス経験の植松、柴田先生、また多数の英語教員、加藤和之、カイム先生など多くは退職したが、原田、モローネ先生は今でも頑張っておられる。豪華な陣容であった。

教授内容、方法とも特色の多いものであった。1、2年次は外国人に通用するコミュニカティブ・イングリッシュを会話、読み書きの区分なしに視聴覚中心の少人数教育で習得させ、同時に国際社会の歴史、文化とビジネスの基礎的学習も行われた。3、4年次は専門科目の講義、実習であったが、外国人、日本人教員による複数授業、ケースメソッド方式、コンピュータ・リテルシイなど特徴のある教授方法により、国際経営、国際会計、国際関係のコース別に行われた。最も特徴とするところは少人数による各年毎のゼミナール開講であった。1年次では経営、会計、経済社会の基礎ゼミが、2年次ではその基礎を英語で購読するゼミを、3、4年次では2ヵ年を通じる専門科目の教員により専門ゼミが行われた。いずれのゼミも学生数15名以下の少人数で、学生の個人、就職などの助言・指導もなされ、ゼミ合宿や卒論作成などを通じゼミ生間の活発な交流が期待された。開設1、2年は開設の趣旨に従う授業が行われ、学生もよく勉強していた。殊に後年、その運用が困難となるコミュニカティブ・イングリッシュの年度末テストや2年次の英諸購読ゼミについても、ほとんど落後者は無く行われた。

私は開学部2年目に就任し早々、学部の教務委員長を命ぜられ、学部学習の実行プラン・フォローを委員と協議することになった。開学3、4年目から学生の学習態度に変化がみられ、学習志向に分裂傾向が生じてきた。一方でビジネスの学習を目指すグループと、他方で外国語中心の学習を心掛けるグループであった。教務委員会で、ビジネス学科と国際関係学科との分離案の意見もあったが、大方の賛成は得られなかった。確かに当時の学生の一般的風潮として、一定の学問体系が定まった経営学などの学習より、文化や社会という一見自由な学習や英会話に興味をひかれることはあったろう。

開学部6、7年経つと英語購読ゼミばかりか、経営・会計の専門科目、専門ゼミも思い通りには行かなくなって来た。多くの学生に専門科目を努めて学習する風潮が乏しくなったことが主因であろう。しかし授業方法にも問題があったと考える。学問体系を考え自主的な学究は今や大学院の課題であり、むしろ必要な基礎的知識や用語を理解し記憶させることが大学での学習と考えるべきではなかろうか。高校で社会科学科目を余り履修していない学生に過大な期待をかけたと言えよう。

しかしながら、法律、経済、経営、会計の基礎知識を大学で身に付けておかないと、社会へ出てから経営者、管理者になることは今後ますます難しくなる。卒業後、自修しようとしても基礎がないと困難である。東京の大学、殊に女子大でもビジネス学科（学部）が増設されている。また多くの女性が経営・管理者に出現している時代でもある。自由競争時代は経済的自立が不可欠である以上、ビジネス基礎の学習は必須である。開学部10年を終り学部名は変更したにせよ、ビジネス学習の重要性はますます高まっているのである。

（2006年10月3日記）

国際経営学部同窓会に参加して

名誉教授 林 茂雄 先生

7月22日に名古屋グランコート・ホテルで開かれた国際経営学部同窓会にお招きを受け出席した。定年退職後わずか1年半しか経っていないのに、大学生活の日々が遠い昔のように感じられた。多分、私自身が遠隔地の田舎（栃木県・那須高原）に居住するようになり、それまで常に身辺に存在した若い世代の方々と急に接触しなくなった環境落差のためだと思う。それだけに先生方や卒業生の皆さんとお会い出来てとても懐かしく感じられた。こうした機会を与えてくれた同窓会世話役の方々のご努力に感謝したい。

国際経営学部が最初の卒業生を送り出してから十年。当然ながら同窓生の中には結婚して家庭を持った方も多い。赤ちゃん同伴で参加した女性もいて微笑ましかった。まだ高校生の面影を残す時に知り合ったゼミ生が、「先生、私お腹にベビーが居るの」と話してくれた時には、昔のあどけなさを知るだけに正直戸惑いを覚えた。かつての教え子たちが社会人として、また家庭人として確実に成長しているのを確認するのが教師の喜びであることを実感した。国際経営学部の特色のひとつは、学生全員がどの先生かのゼミに所属したことである。教師の側からの率直な気持ちだが、同窓会でも「林ゼミ」に所属した学生は確実に名前も卒論のテーマも記憶していた。正直に告白すると、姓の方はあやふやでも、ゼミ教室で呼び掛けた名前や愛称は即座に口に出た。それだけ個人的に認識が強かったのだろう。同学部は現代国際学部と改称されたが、教師と学生が互いに深く知り合う「ゼミ教室」の伝統は今後も残すべきだと痛感した。

苦言を呈することになるが、同窓会にはもっと多くの先生方や同窓生が参加すると思っていた。予想外に少なかったのは開催日が大学の「オープン・キャンパス」の日と重なったことも原因のひとつではないか。在学中に世話になった英語関係の外国人の先生らが参加できなかったのは不味かった。開催日時を決める前に大学側と協議すれば、こうした事態にはならなかっただろう。同窓会の意義は昔の先生や仲間たちと旧交を暖め、近況を語り合うことにある。かなり早い時期に出欠の可否を聞かれたことからも、少なくとも先生方の出欠は把握していたはずだ。大学のHPを利用してでも事前に出席される先生方の名前を公表しておけば、もっと多くの卒業生が参加したのではないか。世話役の方々は、より多くの卒業生が参加したくなるような、内容的に魅力ある同窓会にするよう知恵をしぼって頂きたいと思う。

林先生ゼミ風景

竹内先生ゼミ風景

会報名「NACION」決定!

同窓会報「創刊号」にて募集しました会報名が、多数の応募の中から4期生の北田真理さん考案の「NACION（ネイション）」と決定しました。名前の由来は、名古屋外国語大学のNagoyaから「N」、同窓会のAlumni Associationから「A」、「CI」と「ON」をとり、NATIONの意味を含めたとのことです。今後、「NACION」は会報名やブログサイト名に使用させていただきます。7月22日の懇親会では、北田さんに副賞としてニンテンドーDS Lite を進呈させていただきました。ご応募いただきました方々、誠にありがとうございました。

会報名「NACION」考案者の
北田 真理さん（4期）

同窓会ホームページ進展状況報告

現在、12月の公開に向けてホームページ作成作業が進行中です。ここで少しホームページの概要をお伝えします。
会員の皆さんには個々にパスワードが発行され、それぞれ個々のページが用意されています。そのページで、ご自身のプロフィールやメールアドレス、顔写真などをご登録・ご変更いただけます。機能には、下記の内容をメインに予定しています。

① メンバー検索（生年月日、性別、血液型、住所、出身地、自己紹介、入学年度、などそれぞれのメンバーによって登録された条件によって検索可能）
② コミュニティー（作成・検索・参加）
③ コミュニティー内のスケジュール（作成・参加）
④ マイフレンド（登録・紹介）
⑤ 日記
⑥ メッセージ（メールの送受信・管理）

このHPは、会員同士のコミュニケーションを第一に考えた内容となっており、学年を超えて共通の趣味や職業を持つ同窓生たちとの交流が広がることと思います。12月の公開前には、会員の皆さんにそれぞれのパスワード等を添えて、再度詳細のご案内をいたします。
また、参加していただける教職員の皆様にもパスワードを発行いたします。ご希望をお伺いして、その都度発行させていただきますので、大変お手数ではございますが、同窓会本部までご連絡をお願い申し上げます。

同窓会ブログサイト

12月のホームページ開設に先立ち、同窓会ブログサイト「NACION BLOG」を開設しました。

NACION BLOG ▶ http://blog.nacion.jp

本年度の総会及び懇親会の模様も掲載していますので、ぜひご覧下さい。また、会員又は関係者の方でしたらどなたでも投稿いただけます。ぜひ皆さんの情報交換等にもご活用下さい。投稿にはアカウントが必要ですので、希望者は**info@nacion.jp**まで氏名、住所、電話番号、回生、Emailアドレスなどを明記してご連絡下さい。

平成17年度同窓会優秀奨励賞

平成17年度より、優秀奨励賞を同窓会から在校生へ贈ることとなりました。毎年、学部内にて各学年学科1名ずつを選出いただき、奨励金3万円を進呈します。第1回目（平成17年度）は、玉井学部長を中心に学部・学科にて学業成績及び人物を考慮して選考いただき、下記の計6名に奨励賞を贈りました。

平成17年度同窓会優秀奨励賞受賞者

河合 優 ［国際経営学部国際経営学科4年（2006.3卒業）］

コメント 大学生時代は、とにかく「学生であること」を念頭に興味のある講義はどんなものでも受講しましたが、とりわけ国際労務など、国・文化の違いから来る価値観の違いを中心として学んでまいりました。現在は多国籍企業でも大企業でもなく、そういったことに囚われず自分の一番気に入った企業に勤務しています。大学時代に学んだ一番大きなことは、自分の価値観を信じて好きな道を歩む、ということなのかもしれません。

小西 琴絵 ［国際経営学部国際経営学科3年（現4年）］

コメント 専門ゼミナールではInternational Organizational Behaviour を大きなくくりとして、多国籍企業における組織行動論を学んでいます。コミュニケーションの違いや意思決定の違いなど、文化の違いがビジネスの現場にどのように影響するのかを学んでいます。特に現在は卒業論文のテーマとして多国籍企業における動機付け理論を学んでいます。他には、経済の基本的な仕組みから、財務論など経済についての知識を広げられえるような科目を勉強しています。将来の目標は、4月からの証券会社での仕事に関連しているのですが、FP（ファイナンシャルプランナー）として、多くの人の生活の役に立つことができるようになりたいと考えています。

高田 恵理奈 ［現代国際学部国際ビジネス学科2年（現3年）］

コメント 私は今、会計学、マーケティング、国内外の情勢や法律に興味があり勉強しています。様々な方面を勉強することによって物事を様々な角度から見ることができると思うからです。私は将来、日々目標を持ち、自ら成長し続ける社会人になりたいと思っています。

本多 沙耶香 ［現代国際学部現代英語学科2年（現3年）］

コメント 私の将来の夢はまだはっきりしたわけではありませんが、いつか発展途上国に行って日本語や英語、日本の文化を教えたり、発展途上国に住む人々の手助けになる事をしたいと思っています。その為にも、自分には足りない知識や経験を大学や社会で習得したいです。

長谷川 由紀子 ［現代国際学部国際ビジネス学科1年（現2年）］

コメント 私は学科の名前通り、ビジネスや英語を主に学んでいます。流通やサービスに興味があるのでマーケティングを中心に勉強しています。将来はアパレル関係に進みたいと考えているので、基礎をしっかり学びたいです。

中村 弘秋 ［現代国際学部現代英語学科1年（現2年）］

コメント 僕は現在、大学の交換留学制度でアメリカ合衆国オハイオ州立シンシナティ大学にて日々学んでいます。履修しているコースは5つあり、国際関係の授業を三つ、ジャーナリズムの授業を一つ、それにESLのクラスを一つとなっています。次学期以降もこういった授業を集中的に履修していきつつ、英語力にも磨きをかけ、将来の目標であるジャーナリストになれるよう基礎固めをしていきたいと思います。

受賞された皆様の今後益々のご活躍をお祈りいたします。

同窓生の今

社会に出て活躍している同窓生の近況をお伝えします。
今回は2期生の後藤忠司さんと7期生の楊佳さんに記事をお寄せいただきました。

後藤　忠司さん（2期）

現職 椙山女学園中学校英語教諭、音楽アーティスト

オフィシャルHP www.tadashi-goto.com

みなさんこんにちは。95年国際経営学部入学の後藤忠司といいます。

学部時代、僕はいろんな先生方、友人、環境に出会い、非常に内容の濃い4年間を過ごすことができました。その中で、僕には2つの大きな目標ができました。それは教師になることと音楽をやることだったんですが、現在はなんとかそれらを2つとも叶え、充実した毎日を送っています。

まず、教師について話します。2年間のCommunicative Englishに加え、大学3年の春に学部のプログラムでアメリカのモントレーに行き、そこで生き生きと授業をする先生たちに出会い、教師になることを決意しました。学部卒業後、大学院に行きながら、社会人として教職免許を取得し、大学院の研究の一環でオーストラリアに留学し、英語を勉強しました。帰国後は、論文を書き、通訳や高校講師などをつとめて、現在は名古屋の椙山女学園中学校の英語教諭として勤務しています。

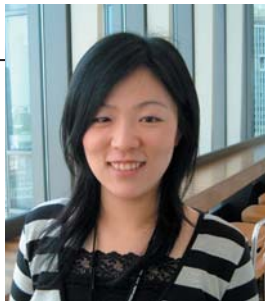
学部時代のCommunicative Englishでの実践型英語教育は、今の僕の授業に根付いており、当時の自分の得た知識を中学生にもわかるように取り入れています。同時に、先生方の授業の準備への苦労が並大抵のものでなかったことも実感しています。授業を作るというのは、本当に大変なことです。それ以上のやりがいがあるから、続けられる職業なのだと思っています。

さて、もう一つの夢であった音楽についてですが、国際経営には音楽やコンピュータが好きな子が多かったんですが、その影響でコンピュータで作曲することを勉強し、いろんな紆余曲折はあったのですが、昨年の春にフランスのレコード会社のMUSEAからデビューし、ファーストアルバムを世界32カ国で発売しました。現在はセカンドアルバムのレコーディングや、コマーシャルの楽曲提供などを手掛け、東京と名古屋を行き来しています。そこで得た印税の一部は、国際機構のセーブ・ザ・チルドレンに寄付し、学業をまともに行うことができない国々の子供たちのために役立ててもらっています。そうすることで、教師業と音楽活動をリンクさせ、2つとも同時に行うことができています。

名古屋外国語大学は、とても魅力的な学校です。今でも2、3ヶ月に一度は母校を訪れ、先生方や職員の方々と昔話に花を咲かせたり、近況報告をしています。すでに教え子のうち2名が外大に入学し、1名はアメリカ、1名は上海に留学中です。2人とも高校時代はとても優秀で、自分の母校に入ってくれたことをとても誇りに思っています。

母校のさらなる発展を心より祈っております。

楊　佳さん（7期）



現職 ベネッセコーポレーション勤務

あっという間に卒業してからもう2年半経ちました。大学時代を振り返ると、自分にとって最高に楽しかった、そして充実した時間でした。仲間たちと受けてきた講義、学園祭、教授たちを訪ねるオフィスオワーなどなど今でも鮮明に覚えています。社会人になってからもあの頃に戻りたいと思うときが幾度もありました。それはけして社会人がつらいからとかではなく、ただ単に大学時代が楽しすぎたから。

大学の思い出はこのくらいにして、私が国際経営学部から卒業したあと、どのような仕事をしてきたかと簡単に紹介させていただきます。進研ゼミなどで知られているベネッセコーポレーションに就職をし、もちろん新卒から経営に携れるような仕事はなく、営業という仕事をしておりました。営業と聞くと、多くの人が訪問営業、対人営業を想像するかと思いますが、私の勤めている会社のメインの営業手段として、ダイレクトメールを送って、いわゆる文字でのコミュニケーションをする仕事です。私の担当業務としては、DM製作から、雑誌に載せる広告、WEB広告制作など自社商品をあらゆる媒体で売り込むことでした。私の所属する部署は主にこどもの教育教材を扱っており、従業員のほとんどが子ども好きで、常々こどものことを考えて仕事をする人たちで、できあがりの商品や、広告の紙面などを見て、「かわいい〜」と思わず口にするかわいい人たちです。それとは間逆に、私はけしてこどもが好きな方ではなかったし、「かわいい〜」と黄色い声を出すこともめったになかった。しかし、自社のブランドを多くの人に知ってもらい、認めてもらい、トップを目指したいという気持ちはだれにも負けなかったのです。同じ仕事でも、一人ひとりによって気持ちの入れ方も違うし、ほれ込むポイントも違う、その仕事に対するほれポイントを見つけ出すことが、その仕事に夢中になれる、全力投球のできる秘訣なのかと思います。たとえそれがまわりの人とまったく異なる理由でもかまわないと私は思います。

かれこれもう今年で社会人3年目、後輩もいっぱい増え、そしてある程度の業務理解もできた年、そろそろ自分の次のステップについて考えるこの頃。会社は10年以上前から日本の少子化を念頭において、アジア諸国でのビジネスチャンスを伺い、試してきました。中国、韓国ではすでに支社、グループ会社が設立され、今後さらなる拡大をめざしています。

そのもとに、自分のこれからのビジョンとしては、やはり「アジアにおける信頼できる教育のトップブランド」を支えていくことです。日本での営業経験はもちろん、これからの数年間は、財務、法務、物流などの知識、経験を積んで、将来的に海外でのマネージメント業務に携りたいと少々野心を抱いております。

現代国際学部の近況

現代国際学部の紹介

2004年（平成16年）4月、現代国際学部は国際経営学部を改組し、玉井俊紀教授を学部長として、発足しました。したがってまだ3年未満の新しい学部です。国際経営学部時代は、国際経営学科1学科でしたが、新学部は現代英語学科と国際ビジネス学科という2学科から成り立っています。これまでの国際経営学部の経験を踏まえ、より時代にマッチした新しい学部を作ろうということで、当時の植松千里国際経営学部長の下、2年以上にわたって検討を加えた結果出来上がった学部です。

現代英語学科（定員120名）は現代社会で英語がより必要とされる観光・ホスピタリティ／国際交流・ボランティア／ジャーナリズム・メディア／通訳・翻訳／児童英語教育という五つの分野を中心にした教育を行っています。国際ビジネス学科（定員80名）はビジネスの世界で必要とされる知識と能力を身につけることでグローバルビジネスの世界で活躍できる人材を養成することを目指しています。このように、両学科はそれぞれ特色を有していますが、しかし、いずれもしっかりとした英語力を身につけた上で、世界の人々と交流ができる教養ある学生を育てようという点で共通しています。つまり、現代国際学部としては、英語教育と教養教育を二つの大きな柱としているのです。

現代国際学部の取り組み

フレッシュマン・キャンプ等

以下、学部・両学科のさまざまな取り組みを紹介します。

まず、これは現代国際学部だけの取り組みではなく、外国語大学全体の取り組みとして行われていることですが、「フレッシュマン・キャンプ」というのがあります。高校を卒業し、大学に入学するとなると、どうしても、友達はできるだろうか、大学の先生はどんな人たちだろうか、といった不安が付きまとうものです。新入生がそうした不安をできるだけ早く払拭し、大学に馴染んで勉学の態勢に入れるよう、各学科で入学式からあまり間をおかずに行われている行事です。一泊二日で各学科がそれぞれ選んだ場所で合宿をし、学生同士・学生と教員の親交を深めています。

国際ビジネス学科フレッシュマン・キャンプ

フレッシュマン・キャンプが実施されるようになってから、新入生の授業への入り方が以前と比べスムーズになったように思われます。国際ビジネス学科ではさらに1年次夏期休暇期と2年次1期末にそれぞれ1泊2日の「学科セミナー」「学科フォーラム」を行っています。グループでの研究発表などを通して、学生のいっそうの学習意欲向上とビジネス分野への理解の深まりを目指したものです。

現代英語学科フレッシュマン・キャンプ

現代国際学特殊講義

次に教養教育の重要な柱として「現代国際学特殊講義A」があります。これはオムニバス形式の、つまり毎週異なった方に講義していただく科目です。さまざまな分野から人を招き、その経験と考えを語っていただくことで、社会人として生きていくうえで何が必要か、学生に考えてもらおうという科目です。今年度（06年度）2期には、たとえば映画字幕翻訳で著名な戸田奈津子さんをお迎えし、大盛況でした。

戸田奈津子さんの講演

パワーアップ・チュートリアル

次に、英語教育について。まず、PUT（パワーアップチュートリアル）があります。これは学生3名にネイティブ教員1名という超少人数の英会話クラスです。学生たちが少人数クラスで、ネイティブ教員と英語で話す機会をより多くもつことによって、ネイティブの人に対して英語で話すことへのためらい、不安を解消することを目指しているものですが、本学部では、さらに、長期休暇期間中も、学生たちに同じような機会を提供しています。「英語集中セミナー」と称して、PUTのネイティブ教員と学生たちが3泊4日にわたって寝食を共にしながら、英語漬けの生活を送るものです。今年度も夏期休暇中に、伊勢志摩の「合歓の里」でこのセミナーを実施しました。

海外研修・海外留学・英語資格講座・教育懇談会

こうした大学での英語学習の成果に基づいて、海外研修や留学が行われています。4週間の海外研修（写真左－05年度夏期のカナダ・カルガリーでの海外研修の風景）、6カ月ないし1年の長期留学、これは国際経営学部時代と異なっていません。現代国際学部はその上で独自の「中期留学」の制度を有しています。3ヵ月間、語学研修だけではなく、企業研修などの機会もある留学制度です（写真右－今年度実施のオーストラリア・サザンクロス大学での授業風景）。さらに、本学部は、TOEFL・TOEICを重視することでより実践的な英語力の養成を目指しています。学内でTOEFLのITPテスト、TOEICのIPテストという団体受験テストを年に数回実施し、そうしたテストで高スコアを獲得するための授業として、企業研修指導の経験者が講師の「英語資格講座」を設けています。

これまで述べてきたような多様な取り組みによって、社会に通用する英語力を学生が身につけることを現代国際学部は目指しています。しかし、学部のこうした目標を実現するためには、保護者との連携が欠かせません。この見地から、すでに国際ビジネス学科が発足年度に実施していたのを受け、昨年05年度は学部として1年生保護者対象の「教育懇談会」を秋に実施しました。教員と保護者が個別に面談することで、より学生の事情を把握した上で教育を進めていこうとするものです。今年度も11月に予定されています。

海外研修風景
（カナダ・カルガリー）

中期留学風景
（オーストラリア・サザンクロス大学）

国際経営学部の経験を踏まえて

このように、現代国際学部はさまざまな新しい試みを行っています。しかし言えるのは、ゼミ制度を軸に学生一人一人を大事にしようという国際経営学部の精神は、本学部でも生きているということです。また、新しい学部のカリキュラムを考えるにあたって、国際経営学部の学生の皆さんからいろいろと話してもらったことが、大変参考になりました。国際経営学部時代のそうした経験があったからこそ、現在の現代国際学部はあるということを申し添えておきたいと思います。

（記　06年10月9日　現代英語学科学科長　奥田隆男）

昨年赴任された新任の宮川先生よりメッセージを頂戴しました。

現代国際学部現代英語学科講師
宮川　公平 先生

国際経営学部同窓会会員のみなさん、はじめまして。私は昨年の春、現代国際学部の教員として赴任してまいりました。専門は法律で、その中でも国際法を研究しています。大学での担当科目は、基礎ゼミ・専門ゼミ、国際関係法、法律1A、NGO・ボランティア関係科目になります。あと今年度からタッチフット部の顧問もしています。

法律との出会いと外大への関わり

まずは簡単に自己紹介をさせていただきます。私は今でこそ法律を専門としていますが、学部生の時代は全く関係ないことを勉強していました。その頃は某大学の外国語学部英米学科に所属し、英語漬けの毎日を過ごしていました。そこには本学のような外国人教員によるコミュニケーションやライティングのクラスがあったわけではなく、英語の基礎クラスは英語による講読や文法のクラスが中心だったように記憶しています。入学してすぐの英語クラスで、300ページを超える英書、しかもエーリッヒ・フロム（心理学者）の「Escape from Freedom（自由からの逃走）」を原書で渡されたのを鮮明に覚えています。そして先生たちが平然と「来週までに40ページ読んできてディスカッション・クエスチョンをつくってきなさい」とおっしゃったことも覚えています。それからというもの、大量の宿題で遅くまで大学の談話室に残ったり、下宿をしている友人たちの家に集まって分担することがしばしばありました。授業ではつくってきたクエスチョンをもとに英語で議論をしないといけませんでした。クラスの中には帰国子女や留学経験者がいたこともあって、自分の英語に対するコンプレックスばかり感じていました。このあたりは多かれ少なかれ皆さんにも同じようなご経験があるのではないでしょうか。私はそのコンプレックスを少しでもなくそうと、ESSに入ってディベートに打ちこみ、おかげで多少の文法的ミスはさておき、人前で英語を使うことは億劫にならなくなりました。ただ、もともと英語よりも国際関係の授業に関心を持っていたので、3・4年でのゼミは英米科のコースではなく、学部開放の国際関係コースのゼミを選択しました。その時のゼミが国際法であったのが法律との出会いでした。

しかし当時は大学教員など夢にも思っていませんでした。就職活動の時期になると、外国語学部系の学生にありがちなように専門性がないことに負い目を感じ、どんな仕事についたらいいのかも悩んでいました。結局、満足のいく就職活動もできず卒業してしまい、その後二年間ぶらぶらとしていました。ただ、その間に愛知県の海外派遣事業に参加する機会を得たことが大学院そして大学教員へと志すきっかけになったのでした。その海外派遣でマレーシアとニュージーランドに行き、現地の青少年に対する行政施策を視察してきました。それぞれ大変印象深かったのですが、マレーシアでの貧富の格差には非常に驚かされました。首都クアラルンプールにそびえ立ついくつもの超高層ビル群、それは東京で目にする高層ビル群とは比べ物になりませんでした。しかし視線を下げて街中を眺めてみると、路地を通ってちょっと裏手に入ると、そこには巨大建造物に見られるような大規模な開発とはまるで違った光景が広がっていました。その日暮らしにやっとであろう浮浪者や物乞いがあちこちにいて、私のところにも何人もやってきました。その時は大きな驚きとともに、とにかくその場から逃れたい一心で目を背けていたことを覚えています。その経験から、途上国に対して何かできることはないか、せっかく国際法をやったのだからそれを生かせないだろうかと考えて大学院へ行く決心をしたのです。

大学院へ行って博士後期課程に進んでから何年か経った2003年の冬に、大学院の指導教官から名古屋外国語大学が新学部設置に伴って授業担当者を探しているらしいから行ってみてはどうかと勧められ、外大に行くことになりました。

国際経営学部学生との出会い

外大では、私は一年生向け科目である研究基礎トレーニング（植松先生がまとめ役として複数の教員とともに基礎ゼミと類似の内容を実施）の担当と、2期には国際経営学部科目の国際環境論の担当が決まりました。その国際環境論を担当してはじめて国際経営学部の学生たちと出会うことになりました。専門的な科目としてははじめての非常勤ということもあり、非常に緊張し毎回毎回悩みながら授業を進めていきました。そして毎回質問用紙を提出してもらい、それに回答することで分かりづらいところ、自分の授業進行の悪い点を修正しつつ、受講生とのコミュニケーションを図っていきました。そのうちに学生の皆さんとも打ち解けて話をすることができるようになり、中には留学の話や就活の結果を伝えてきてくれる学生もいました。国際環境論の授業が終わってみると、彼らに対して十分な授業をしたという実感よりも、逆に彼らにいろんなことを教わったという感覚のみが残りました。私に対して率直な姿勢で取り組んでくれた彼らの姿勢はとても忘れられるものではありません。

外大への赴任と同窓会の始動

外大での非常勤の最中に常勤での採用が決まり、2005年春に正式に赴任してきました。そして国際経営学部の同窓会は、私が外大に赴任したまさにその年に本格的に始動することになったのです。そのため不思議な縁をも感じています。また、多少なりとも特別な思いももっています。というのも、植松先生と同窓会事務局の浅井さんが研究基礎トレーニングを担当されていたこともあり、総会の準備段階からいろいろとお話を聞いていましたし、またお二人のご尽力を拝見していたからです。初の総会の時にも出席させていただき、同窓会に集まってくれた同窓会員のみなさんが先生方と楽しく歓談されている姿を拝見し、同窓会発足を喜ぶとともにその大切さを痛感いたしました。

赴任して一年半

早いもので、赴任してから一年半が経ってしまいました。振り返ってみますと国際経営学部の授業としては、昨年国際環境論、英書購読、NGOと国際ボランティア論（現代国際学部と合同）を担当いたしました。その中で、決して多くではありませんが、半年もしくは一年の間授業を担当し、非常にアットホームな授業だったように思います。就職決定の報告をしてくれたり、バイトの話をしてくれたり、いろんなことを聞かせてくれました。そして何よりもうれしかったのは無事に卒業を迎えてくれたことでした。ゼミ生ではないけれども、彼らの卒業式は私にとって寂しくもあり嬉しくもありとても印象深いものでした。今年は、現代国際学部と合同という形で、国際環境論、NGOと国際ボランティア論を担当し、国際経営学部として最後の学生と授業をともにしています。そしてその何名かは、昨年から私の授業をとってくれています。今年度の残りの期間、彼らとともに過ごせることにとても大きな喜びを感じています。だからこそ、今後国際経営学部同窓会に出て彼らと時間を共有できるのが大きな楽しみとなることでしょう。

同窓会への期待

さて最後になりますが、同窓会員のみなさんにはぜひとも同窓会を盛り上げていって頂きたいと思います。毎年、私の所には出身大学と大学院から同窓会の案内や会報が届き、そうしたものを通じて大学の様子がうかがい知れるだけでなく、同級生ともまた会ってみたいというきっかけにもなります。また、今でも現役生にとってOBやOGである皆さんを頼りにできることが大きな励みにもなっているのです。実際に私の担当ゼミ生もインターンシップや就活において国際経営学部の先輩に会って話をすることができたと大変感激していました。今後同窓会が現役生にとっても実りあるものになって頂けるとうれしく思うと同時に、皆さんが同窓会を通じて縦と横のネットワークを充実させ、社会で益々ご活躍されることをお祈りしております。

留学体験記

現在留学中のお二人より留学体験談をお寄せいただきました。

名古屋外国語大学現代国際学部現代英語学科2年

中村　弘秋 さん

僕は今、アメリカ合衆国のオハイオ州にあるシンシナティ大学という学校で交換留学生として日々学んでいます。僕がこの大学を選んだのは、ESLだけでなく正規の授業も学部生と同様に履修できるということ、それに興味をそそられる授業が豊富にあったからです。その長所を活用し、今期は学部の授業を4つ、それに補完的にESLを1クラス履修しています。学部の授業については、ジャーナリズムや国際関係に興味を持っているためInternational affairsから3コース、Journalismから1コースを履修しています。

授業に関しては、まずほとんどの授業がネイティブの生徒を対象にしているため、話される英語のスピードもかなり速く、また文化的背景についても知らないことがほとんどなので話していることがよく理解できないことも頻繁にあります。それに加え授業の内容そのものも質が高く、例え日本語で授業を受けても理解が難しいような高度な授業も中にはあります。そういった場合には授業の前後に教科書を熟読しておく、意味のわからない言葉は必ずメモを取り英英辞書で意味を調べるなどの予習復習が欠かせません。また現地の学生を見習い挙手質問する、教授方に直接相談するなど積極的に問題を自分から解決する能力の必要性を強く求められているのを感じます。アメリカの学生は一般にきわめて積極的で、挙手して質問する、自分の意見を述べることをきわめて積極的かつ日常的に行います。授業中の私語や居眠りなどもほとんど見られず、彼らの姿勢から学ぶことはとても多いと思います。

生活面においては、今回が人生初の海外生活ですが深刻なカルチャーショックやホームシックに悩むこともなく、快適に毎日を過ごしています。渡米する前まではアメリカは危険だという先入観に囚われていて不安も大きかったのですが、

実際に生活してみると予想よりもずっと安全で快適だということに正直驚いています。学校専属の警察が24時間態勢でパトロールに当たっているお陰もあり、危険を感じることはまずありません。深夜に一人で出歩かない、危険な場所に立ち寄らないなどの基本的なルールさえ守って常識的な行動に努めれば、危険な目に遭うということはほとんどないと思います。また道端ですれ違う見知らぬ人同士でも、目が合えばにっこりと笑って挨拶をする、扉を通る際には次の人のために扉を開けたままこちらを先に通してくれるなど、かえって日本よりも礼儀正しい面などもあり、見習うべきだと感じる点も多くあります。

到着してからもうすぐ1ヶ月近くになることもあり、アメリカでの生活にもずいぶん慣れてきました。着いた当初は全てのものが巨大なのに驚いたり、お店のレジで普通に世間話(もちろん英語で)を振られるのに戸惑ったりもしましたが、今ではそれも日常生活の一部となりました。英語力も滞在1ヶ月未満とはいえ日本にいたときよりもかなり上達しているのがわかりますし、挨拶や応答もほとんど無意識でできるようになり、やはり英語圏で実際に生活するメリットは本当に大きいなと実感しています。

今後の抱負としては、授業はもちろんイベントなどにも常に積極的な姿勢で臨み、自分とは異なる文化やものの考え方に触れることによって見識を広げたいと思います。

また次学期以降も自分の興味のある分野であるジャーナリズムや国際関係を中心に幅広く履修し、英語力の研鑽はもちろん将来の目標であるジャーナリストに必要な素養を身に着けていきたいと思います。

名古屋外国語大学国際経営学部国際経営学科4年

小西　琴絵 さん

大学2年次の9ヶ月間ニュージーランドに留学をしていました。高校2年次にも一年間同じくニュージーランドに交換留学をしていたことがあるのでこれが2度目になります。私にとっての海外での生活は常に新鮮で、とても貴重な体験ばかりです。
特に、この大学での1年間の経験はとても忘れられない体験ばかりです。

私は、ニュージーランドにあるワイカト大学に9ヶ月間いました。この大学のあるハミルトンはとても自然の豊かな街で、人々もとてもおおらかでとても住み心地のよい場所です。

私はこの場所へホームステイをしながら大学付属の語学学校に通いました。ホストファミリーはファーザーとマザーの二人で、二人とも本当にやさしく本当の家族のようにあつかってくれました、特にホストマザーとは週末二人で街まで買い物に行ったり、彼女の友達と一緒にカフェでお茶をしたりと、とても楽しい時間を常に過ごしていました。学校には、中国や韓国・台湾をはじめとするアジア諸国やブラジルやチリなどの中南米。また、ヨーロッパ諸国など世界各国から来ていて、しかも年齢層もバラバラだったので、国籍・年齢を飛び越えて、いろいろな人々と知り合いになることができました。そして彼らと話をすることで様々な価値観の違いや文化の違いを肌身で実感でき、とてもよい経験になりました。

この留学では語学の習得ができたのはもちろんですが、それ以上に日本から世界を見ていては見ることの出来なかったその国の文化や人々と直に接することが出来き、とても貴重な経験になりました。また、日本の授業では、教材として流暢なアメリカ英語ばかり聞いていたのですが、この留学で、様々な国の独特の英語も聞くことができるようになりました。東南アジアの人々の話す英語、ヨーロッパの人々の話す英語、もちろん、日本人独特の英語も聞くことができるようになり、教材や試験で聞く英語だけが世界で話されている英語ではないことも実感しました。

名古屋外国語大学の近況

「星の王子・王女たちの留学物語」出版

名古屋外国語大学生の留学体験記を集めた本が出版されました。
留学を経験した学生たちのアメリカ、中国、オーストラリア、フランスなど9カ国にわたる留学記がつづられています。

監修／丹羽健夫（名外大理事）
編／星の王子・王女編集委員会
出版／文芸春秋企画出版

大　学　祭

2006年10月28日（土）、29日（日）の2日間、名古屋外国語大学と名古屋学芸大学の合同祭が開催されます。内容も年々充実して毎年大変賑わっていますので、母校見学も兼ねて、ぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか。

最新情報は
合同祭実行委員会
ホームページにて

http://www.geocities.jp/goudousai/11/link.html

国際交流

国際人の育成を最大のテーマとする名古屋外国語大学は、創立以来、多彩な国際交流活動を展開してきました。長期・短期留学、語学研修など充実したさまざまなプログラムによって学生をバックアップし、外国人留学生の受け入れも積極的に行っています。 また、海外提携大学からの教授の招聘や本学教員の海外派遣など、教員の国際交流も盛んです。
名古屋外国語大学は現在、51校の海外の大学と国際交流協定を結び、毎年、日本人学生約150名をそれらの大学へ交換留学生として送り出し、また、ほぼ同数の外国人留学生を受け入れています。

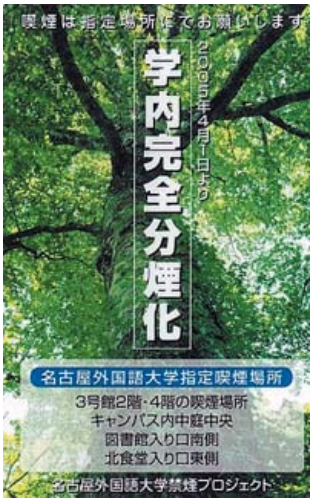
また、名外大では、外国人留学生との交流の場としてランゲージラウンジを設置しています。毎日お昼休みに英語、フランス語、中国語、スペイン語、日本語のラウンジに分かれて外国人留学生と日本人学生が集まり、昼食をとりながら語り合い、交流を深めています。

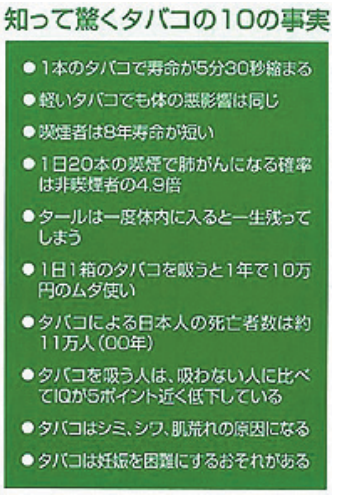
学内禁煙運動

名古屋外国語大学では、非喫煙学生から、共通スペース、研究室におけるタバコの煙による不快感、アレルギー等の健康被害に関する苦情が多々寄せられていました。
これに応えるために、名外大は学生一人ひとりが、非喫煙者ひいては他人への思いやりを持ち、良質のマナーと高い規範意識を身につけるべく、教職員一丸となって、時には厳しい姿勢で、キャンパスの禁煙化を推進してまいります。実効性のあるものにするために、教職員すべてが、率先垂範の意味においても学内喫煙を自粛いたします。

名古屋外国語大学禁煙プロジェクトチームは、平成17年度より実施された学内完全分煙を徹底するため、春と秋にキャンペーン・ウォークを実施しています。多くの教職員、学生の参加をいただき、楽しく意識向上キャンペーンを行うことができました。今後も学内完全無煙化に向けて、いっそう運動を活発にしていきたいと考えています。

（学生厚生委員会、禁煙プロジェクトチーム）





「禁煙キャンパス化を宣言します」

名古屋外国語大学は、喫煙による健康被害を防止する為に以下の事を徹底しています。

- **喫煙者のタバコの有害性の認識**
- **歩きタバコ、ポイ捨ての撲滅**
- **指定された場所以外では喫煙しない**

このようにキャンパス内の禁煙化を行い、「快適」で「健康」で「モラル」のあるキャンパス作りに励んでいます。